



## 石川建協建青委

石川県建設業協会の建設青年委員会（北川隆明委員長）は20日、金沢市の金沢都ホテルで「三方良しの公共事業」をテーマにした講演会を開いた。写真。講師は、三方良しの公共事業推進研究会の理事も務める、磯部組（高知県奈半利町）の宮内保人技術部長で、「『ありがとう』と言われる公共事業をめざして―三方良しの公共事業、その理念と実践」と題し、1時間半にわたって熱弁をふるった。

## 現場からの情報発信重要

海道開発局でワンデーレスポンスが試行された背景から説き起こした。片務性が課題となる受発注者という2項対立図式を、第3者であり、公共事業の真のお客さんである「住民」に開いていくことが、公共事業に対する住民の理解と、受発注者関係の改善への契機にもなっていくと指摘した。3者それぞれにとって「良い」公共事業とするためには、建設現場を軸にした住民との関係を基本に、現場からの情報の受発信や交流、それによって形成される信頼をストックし

## 「三方よし」テーマに講演会

ていくことが重要であると強調した。最後に、実際の災害復旧工事を通じて生まれた地域住民との心のつながりを映像を交えて紹介。深い謝意をつづった住民のメールも添えられていた。会場には青年委員会のメンバーのほか、北陸地方整備局金沢河川国道事務所や石川県土木部、金沢市の各幹部、三方良しの公共事業推進研究会新潟支部、北陸建設青年会議の会員ら約120人が詰めかけ、石川県内では初めてとなる、三方良しについての講演に聞き入っていた。

